

## 「熊本城マラソン支援基金」に関するご協力をお願い

### 1. 平成 28 年熊本地震

2016 年 4 月 14 日の前震および 4 月 16 日の深夜に発生した本震を中心とした平成 28 年熊本地震におきまして犠牲になられた方々とご遺族の皆様に対し、深くお悔やみを申しあげます。

震災から2週間余りが経過いたしました。今日においても一向に余震が収束する気配が見えていません。これから梅雨を迎えるに当たって様々な危険も懸念されており、被災者の皆様に安らぎの 때가訪れるのはまだまだ長い時間が必要な状況かと存じます。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

今回の悲報に接した際に、地震の発生した場所が熊本と聞いて驚いた方は少なくないでしょう。私もその一人ですが、冷静に考えれば、我が国はマグニチュード6以上の地震の回数が世界全体の 20.8%を占めるなど地震の巣の上に位置する国です。また、地震の他にもその位置、地形、地質、気象などの自然的条件から、台風、豪雨、豪雪、洪水、土砂災害、津波、火山噴火などによる災害が発生しやすい国土です。我々日本人がこうした地に国家を構えている以上、日本の何処でこうした深刻な災いが発生しても驚いていられない状況であることは覚悟しておかなければならないでしょう。

### 2. 熊本城マラソン支援基金の概要

今回の平成 28 年熊本地震において、熊本県およびその周辺の広域に亘る被害もさることながら、日本中の人々が心配している事案が、熊本県民の誇りであり、日本三大名城の一つにも数えられている熊本城の被災状況です。

ご承知の通り、熊本城は現存する宇土櫓などの櫓・城門・塀 13 棟は国の重要文化財に指定されており、城跡は「熊本城跡」として国の特別史跡に指定されている名城ですが、今回の地震で修復の目途すらたない程の甚大な被害が発生しています。歴史的、文化的価値も含めての復興となるとどの位のお金と時間がかかるのか全く想像ができません。

熊本城の被災に関連し、熊本城マラソンの来年以降の開催を大変、心配いたしております。関係者の皆様の思いは察するに余りありますが、たとえば事故で手や足をなくしたり失明したりした時のような心境に近いものかもしれません。我々が推し量ることができないほど深い皆様の喪失感・焦燥感を思うにつけ、私自身も心を痛めております。

そうであるが故に、如何に困難な道りであったとしても、熊本城が震災前の優美な姿に蘇る日が来ることを切に願っています。その為には、義援金のような一時金ではなく、息の長い支援ができる仕組みが必要であると考えています。

私は、マラソン関係の研究及び活動に携わるものとして何か出来ることがあるのではないかと思索し、以下に示す支援の枠組みを考えました。それは、Web サイト「ハートフルランナーズ」にフェアタイムが掲載されている大会の皆様に対して掲載料(一律 10,000 円を予定)をお願いし、その全額を熊本城マラソンの支援に活用しようというものです。

勿論、賛同して頂けるか否かに関わらずフェアタイムの掲載は続けさせていただきますし、納付して頂いた大会名を公表することも致しません。

### 3. ハートフルランナーズの現状

私は、Web サイト「ハートフルランナーズ」でマラソンの記録の規格値である「フェアタイム」を過去 10 年余に亘って提供いたして参りました。当該 Web サイトを開設した当初は 8 大会でしたが現在では 82 大会(国内 73 大会、国際 9 大会)に増え、北海道の別海町から沖縄の石垣島までを繋ぐ情報ネットワークが出来上がりました。

全てのランナーはフェアタイムによって真のパフォーマンスを検証できることは元より、ワーブタイム(フィニッシュタイム変換システムにより推定した他の大会での記録)を未知のレースに生かすことができます。また、ワーブタイムの活用はマラソン大会は相互の絆を深め、ランナーは未知の大会をより身近な存在として捉えることができることでしょう。

これらのフェアタイム・ワーブタイムは仮想測定系システム(Virtual Measurement System:VMS)によって生成される世界で唯

一のコンテンツです。これらを実用に耐えるレベルまで向上させるため、10年の歳月をかけて100以上のフルマラソンを走って問題点を洗い出し、10,000を超すアイデアの試行錯誤によって精度の向上に努めて参りました。こうして出来上がった情報ネットワークを更に発展させ、マラソン大会相互およびマラソン大会とランナーの絆を深める情報ポータルに成長させたいと考えています。

また、フェアタイム・ワーブタイムの普及は、ハートフルランナーズが目指す「フェア(公平平等)」、「クール(冷静沈着)」、「ハートフル(共存共栄)」な社会を築く上でも重要な意味を持つと考えております。

#### 4. 基金発足の二つの意味

国際特許であるVMS、そしてそれに関連する権利(商標権、著作権など)を原資とする基金を発足させることには、二つ意味があります。

一つは、これらの知的財産の有効利用という側面です。VMSは従来の情報処理とは桁違いの高い精度で新たな情報を創造することができるシステムであり、マラソンに限らず、すでに教育、政治、経済などの多分野での応用研究を進めています。これらの研究成果を営利目的ではなく、地球の未来の為に使うという構想を具現化するという事です。

もう一つは、科学技術の濫用の防止という側面です。特許権の存続期間は20年ですから、VMSに関する基本特許は近未来には確実に消滅します。その際、VMSの様々な成功事例に着目した”金の亡者”が私の意図したことは異なる目的に活用する蓋然性が高いと考えています。

科学技術は諸刃の剣ですから、その使い方を誤ると取り返しのつかない事態を引き起こします。

例えば原子力ですが、原爆の製造が人類を存続の危機に陥れていることは言うに及ばず、その平和利用においても廃棄物処理の問題が未解決のまま汚染物質を増やし続け、未来に負の遺産を押し付けているという現状があります。また人工知能の研究成果が金融工学として姿を変えてデリバティブと呼ばれる金融派生商品を作り出し、2008年にリーマンショックを引き起こしたことは記憶に新しいところです。

VMSの生みの親である私には、VMSの活用方法を指揮監督する義務があると思っています。その為の具体的な方法として、VMSの活用によって生まれる対価を基金に集約し、地球の未来の為に使うという枠組みを作ろうと思っています。そして、こうした構想を実現させる為の第一歩がここに提案させて頂いている「熊本城マラソン支援基金」です。

#### 5. 設立する基金の概要

今回、設立を予定している基金は、事案の緊急性を考慮して以下のようなシンプルな制度を考えています。

◆基金の名称	熊本城マラソン支援基金
◆決算期間	2016年5月1日(基金発足日)より2016年12月31日(※第1期の決算期間)
◆入金の名目	Webサイト「ハートフルランナーズ」におけるフェアタイム掲載料
◆入金の方法	指定口座への振込み(※入金を確認後、領収書を発行します)
◆振込金額	10,000円(※手数料はご負担をお願いします)
◆指定口座	銀行:三井住友銀行白山支店 店番号:223 口座番号:6701282 口座名義:㈱ハートフルランナーズ
◆基金の活用	第1期決算期間の入金分の全額を熊本城マラソン実行委員会に寄付
◆寄付の形態	寄付時においては、協賛大会名は匿名、寄付金の総額は公表

なお、来年度以降に関しましては、皆さまのご意見を考慮しつつ制度を整備し、恒久的な基金として発展させていきたいと考えております。また、6月10日、11日に予定している市民マラソンフォーラム2016では、10日の運営者会議でマラソン大会由来の基金について、11日には市民ランナー由来の基金について議論したいと考えています。

Webサイト「ハートフルランナーズ」における熊本城マラソンのトップページには大会からご提供頂いた写真が掲載されており、かつての熊本城の雄姿や熊本城マラソンの活気あふれる様子を思い起こすことができます。熊本城マラソンにこうした笑顔がまた戻ってくることを願い、そして日本の未来、地球の未来をご賢察の上、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。